# 学校施設整備に関するアンケート調査結果 概要

## １．調査概要

### （１）調査の方法

①調査対象

| | |
|---|---|
| 児童生徒 | 市内の全小学校５年生・６年生、中学生 |
| 保護者 | 市内の全小中学校の児童生徒の保護者 |
| 教職員 | 市内の全小中学校に勤務する教職員 |

②調査方法

WEB 回答フォームにて回答収集

③調査期間

| 対象 | 調査実施期間 |
|---|---|
| 児童生徒 | 令和８年９月４日～令和８年９月 11 日 |
| 保護者 | 令和８年８月 18 日～令和８年８月 25 日 |
| 教職員 | 令和８年８月 18 日～令和８年９月８日 |

### （２）回収結果

| 対象 | 対象者数 | 回収数 | 回答率 |
|---|---|---|---|
| 児童生徒 | 3,155 | 2,687 | 85.2% |
| 保護者 | ※　5,729 | 1,219 | ― |
| 教職員 | 421 | 308 | 73.2% |
| 合計 | ※　9,305 | 4,214 | ― |

※1 人の児童生徒に対して、複数の保護者が回答する等の重複の可能性があるため、正確な対象者数は不明。

### （３）留意事項

【児童生徒向けアンケートについて】

・回収した 2,687 件のうち、通学する学校と学年の回答に矛盾があり、小学校・中学校の区分を特定できない回答が 55 件含まれている。
・本資料では、現時点で当該回答を集計データから一律に除外することが困難であるため、全体集計には 55 件を含む 2,687 件を使用している。
・一方、小学校・中学校別の集計など、校種の特定が必要な集計については、当該 55 件を除いて集計している。このため、全体集計と小学校・中学校別の集計及び一部のクロス集計では、回答数（n）が一致しない場合がある。
・なお、割合はそれぞれの集計対象となる回答数を母数として算出している。

【保護者向けアンケートについて】

・回収した 1,219 件のうち、通学する学校と学年の回答に矛盾があり、小学校・中学校の

区分を特定できない回答が 9 件含まれている。
・本資料では、現時点で当該回答を集計データから一律に除外することが困難であるため、全体集計には 9 件を含む 1,219 件を使用している。
・一方、小学校・中学校別の集計など、校種の特定が必要な集計については、当該 9 件を除いて集計している。このため、全体集計と小学校・中学校別の集計及び一部のクロス集計では、回答数（n）が一致しない場合がある。
・なお、割合はそれぞれの集計対象となる回答数を母数として算出している。
・保護者向けアンケートの設計において、Q9（Q 8「1 学級あたりの適正人数」で答えた理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。）及び Q11（Q10「1 学年あたりの適正学級数」で答えた理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。）は、本来「複数選択可」とすべき設問であったが、調査開始当初は誤って単一回答に設定していた。途中で設定を修正したため、1,219 件中 249 件は単一回答、970 件は複数回答での回答となっている。このため、Q9・Q11 及びこれらを用いたクロス集計の結果については、単一回答と複数回答が混在している点に留意する必要がある。

・本資料に掲載している数値は速報値であり、今後の精査、再集計等により訂正される場合がある。

## 2．調査結果概要

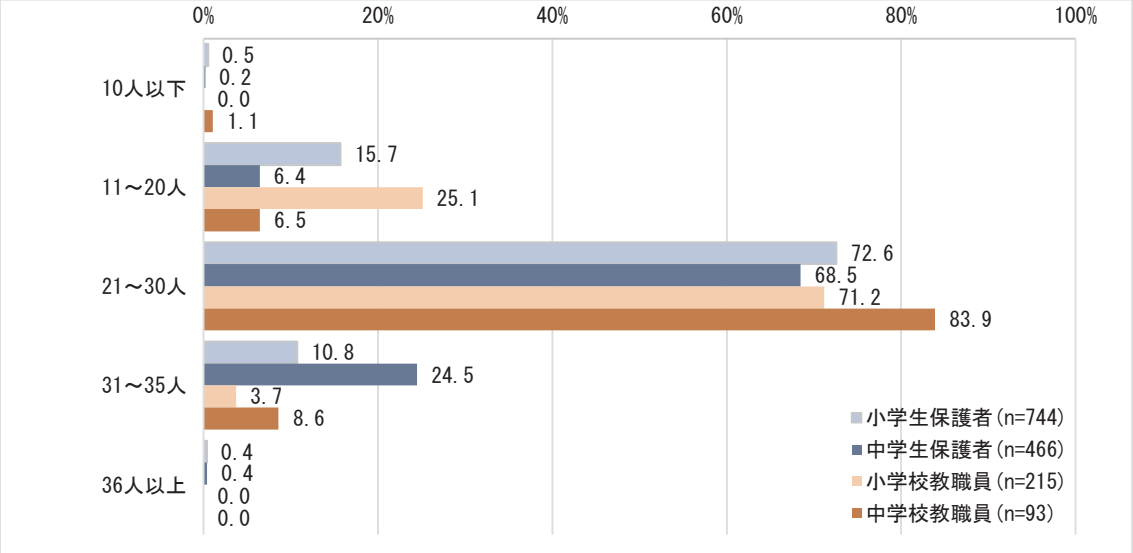
### （１）適正規模について

＜保護者＞＜教職員＞１学級あたりの適正人数

・保護者をみると、小学生の保護者は、「21～30 人」72.6%、中学生の保護者も「21～30 人」68.5%とともに高い。次いで、小学生の保護者は「11～20 人」15.7%が高く、中学生の保護者は「31～35 人」24.5%が高い。適切と考える 1 学級あたり人数は、中学生の保護者の方が多くの人数を許容する傾向がみられる。

・教職員をみると、小学校・中学校教職員のどちらも「21～30 人」が最多である。小学校教職員では「11～20 人」が 25.1%と中学校教職員の 6.5%を大きく上回り、小学校教職員では、より少人数の学級を適切と考える傾向がみられる。

・保護者、教職員ともに小学校、中学校の分布傾向は一致している。



## ＜保護者＞＜教職員＞１学級あたりの適正人数×理由

・保護者をみると、小学生・中学生ともに、30 人以下を適切と考える層では「きめ細やかな指導」「子ども一人ひとりの発言や活動の機会」「落ち着いた学習環境」が高い。加えて、「21～30 人」を適切と考える層では、「グループ学習」も高い。一方、「31～35 人」を適切と考える層では、「多様な考えに触れやすい」「互いに切磋琢磨」「グループ学習」が高く、適切と考える学級人数によって重視する教育環境が異なる傾向がみられる。

・教職員をみると、小学校教職員は 30 人以下、中学校教職員は 21～30 人の回答数が多い。30 人以下の層では、「きめ細やかな指導」「子ども一人ひとりの発言や活動の機会」「落ち着いた学習環境」が上位となっている。

・少人数の学級では個に応じた指導や学習環境、大きめの学級では多様な人との関わりや集団活動が重視される傾向がみられる。

上段:人数(人)
下段:割合(%)

：全体より＋10%以上　：全体より－10%以下
：全体より＋５%以上　：全体より－10%以下

### 小学生の保護者

| | | 全体 | 一人一人の状況に応じたきめ細やかな指導を受けやすい | 子ども一人ひとりの発言や活動の機会が確保されやすい | 落ち着いた学習環境を確保しやすい | グループ学習や話し合い活動を行いやすい | 互いに切磋琢磨して学習や運動に取り組める | 子ども同士が様々な個性や多様な考えに触れやすい | 教室の広さや教材・ＩＣＴ機器等を使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (744) | 385<br>51.7 | 298<br>40.1 | 258<br>34.7 | 257<br>34.5 | 171<br>23.0 | 265<br>35.6 | 135<br>18.1 | 18<br>2.4 |
| Q8 １学級あたりどの程度の人数が適切と思いますか。【１つ選択】 | １０人以下 | (4) | 3<br>75.0 | 1<br>25.0 | 2<br>50.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 2<br>50.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | １１～２０人 | (117) | 91<br>77.8 | 55<br>47.0 | 51<br>43.6 | 19<br>16.2 | 15<br>12.8 | 36<br>30.8 | 23<br>19.7 | 7<br>6.0 |
| | ２１～３０人 | (540) | 278<br>51.5 | 227<br>42.0 | 191<br>35.4 | 194<br>35.9 | 111<br>20.6 | 178<br>33.0 | 99<br>18.3 | 10<br>1.9 |
| | ３１～３５人 | (80) | 12<br>15.0 | 14<br>17.5 | 13<br>16.3 | 44<br>55.0 | 43<br>53.8 | 47<br>58.8 | 12<br>15.0 | 1<br>1.3 |
| | ３６人以上 | (3) | 1<br>33.3 | 1<br>33.3 | 1<br>33.3 | 0<br>0.0 | 2<br>66.7 | 2<br>66.7 | 1<br>33.3 | 0<br>0.0 |

※「1 学級あたりの人数を選択した理由」は調査途中で単一回答から複数回答へ設定を変更しているため、参考値。

### 中学生の保護者

| | | 全体 | 一人一人の状況に応じたきめ細やかな指導を受けやすい | 子ども一人ひとりの発言や活動の機会が確保されやすい | 落ち着いた学習環境を確保しやすい | グループ学習や話し合い活動を行いやすい | 互いに切磋琢磨して学習や運動に取り組める | 子ども同士が様々な個性や多様な考えに触れやすい | 教室の広さや教材・ＩＣＴ機器等を使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (466) | 232<br>49.8 | 189<br>40.6 | 151<br>32.4 | 139<br>29.8 | 133<br>28.5 | 147<br>31.5 | 100<br>21.5 | 7<br>1.5 |
| Q8 １学級あたりどの程度の人数が適切と思いますか。【１つ選択】 | １０人以下 | (1) | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | １１～２０人 | (30) | 23<br>76.7 | 16<br>53.3 | 17<br>56.7 | 6<br>20.0 | 3<br>10.0 | 7<br>23.3 | 9<br>30.0 | 1<br>3.3 |
| | ２１～３０人 | (319) | 183<br>57.4 | 145<br>45.5 | 104<br>32.6 | 85<br>26.6 | 74<br>23.2 | 76<br>23.8 | 70<br>21.9 | 3<br>0.9 |
| | ３１～３５人 | (114) | 25<br>21.9 | 27<br>23.7 | 29<br>25.4 | 48<br>42.1 | 54<br>47.4 | 64<br>56.1 | 21<br>18.4 | 3<br>2.6 |
| | ３６人以上 | (2) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 2<br>100.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |

小学校教職員

| | | 全体 | 一人一人の状況に応じたきめ細やかな指導を受けやすい | 子ども一人ひとりの発言や活動の機会が確保されやすい | 落ち着いた学習環境を確保しやすい | グループ学習や話し合い活動を行いやすい | 互いに切磋琢磨して学習や運動に取り組める | 子ども同士が様々な個性や多様な考えに触れやすい | 教室の広さや教材・ＩＣＴ機器等を使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (215) | 166<br>77.2 | 138<br>64.2 | 136<br>63.3 | 85<br>39.5 | 45<br>20.9 | 71<br>33.0 | 70<br>32.6 | 3<br>1.4 |
| Q9 １学級あたりどの程度の人数が適切と思いますか。【１つ選択】 | １０人以下 | (0) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | １１～２０人 | (54) | 48<br>88.9 | 41<br>75.9 | 42<br>77.8 | 19<br>35.2 | 8<br>14.8 | 15<br>27.8 | 22<br>40.7 | 1<br>1.9 |
| | ２１～３０人 | (153) | 118<br>77.1 | 97<br>63.4 | 92<br>60.1 | 61<br>39.9 | 34<br>22.2 | 53<br>34.6 | 48<br>31.4 | 2<br>1.3 |
| | ３１～３５人 | (8) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 2<br>25.0 | 5<br>62.5 | 3<br>37.5 | 3<br>37.5 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | ３６人以上 | (0) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |

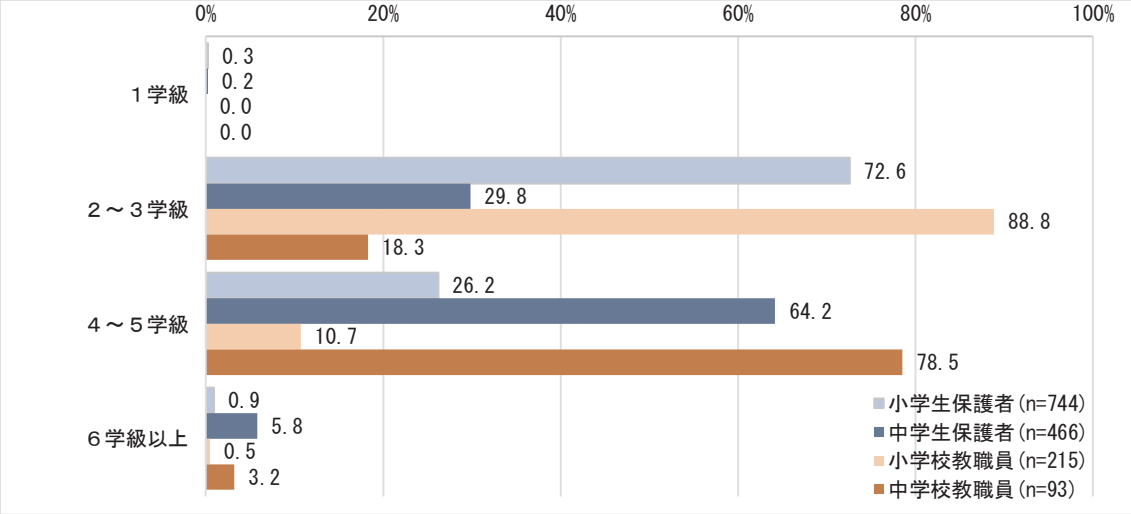
中学校教職員

| | | 全体 | 一人一人の状況に応じたきめ細やかな指導を受けやすい | 子ども一人ひとりの発言や活動の機会が確保されやすい | 落ち着いた学習環境を確保しやすい | グループ学習や話し合い活動を行いやすい | 互いに切磋琢磨して学習や運動に取り組める | 子ども同士が様々な個性や多様な考えに触れやすい | 教室の広さや教材・ＩＣＴ機器等を使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (93) | 69<br>74.2 | 60<br>64.5 | 55<br>59.1 | 34<br>36.6 | 23<br>24.7 | 37<br>39.8 | 34<br>36.6 | 1<br>1.1 |
| Q9 １学級あたりどの程度の人数が適切と思いますか。【１つ選択】 | １０人以下 | (1) | 1<br>100.0 | 0<br>0.0 | 1<br>100.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 1<br>100.0 | 0<br>0.0 |
| | １１～２０人 | (6) | 5<br>83.3 | 5<br>83.3 | 3<br>50.0 | 3<br>50.0 | 0<br>0.0 | 2<br>33.3 | 3<br>50.0 | 0<br>0.0 |
| | ２１～３０人 | (78) | 58<br>74.4 | 53<br>67.9 | 47<br>60.3 | 27<br>34.6 | 19<br>24.4 | 32<br>41.0 | 29<br>37.2 | 1<br>1.3 |
| | ３１～３５人 | (8) | 5<br>62.5 | 2<br>25.0 | 4<br>50.0 | 4<br>50.0 | 4<br>50.0 | 3<br>37.5 | 1<br>12.5 | 0<br>0.0 |
| | ３６人以上 | (0) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |

## ＜保護者＞＜教職員＞1 学年あたりの適正学級数

・保護者をみると、小学生の保護者は、「２～３学級」が 72.6%と高いのに対し、中学生の保護者は、「４～５学級」が 64.2%と高く、中学生の保護者の方が、学級数が多い方を適切と考える傾向にある。

・教職員をみると、小学校教職員では「２～３学級」が 88.8%、中学校教職員では「４～５学級」が 78.5%を占め、中学校教職員の方が、学級数が多い方を適切と考える傾向にある。



## ＜保護者＞＜教職員＞1 学年あたりの適正学級数×理由

・保護者をみると、小学生・中学生ともに、「クラス替えができ、人間関係が固定化されにくい」「多くの友達・多様な人と交流できる」は、2～3 学級、4～5 学級のいずれでも上位となっている。

・さらに、2～3 学級を適切と考える層では、「教員同士が連携・分担しやすい」「運動場や体育館、特別教室などがゆとりをもって使いやすい」が比較的高く、4～5 学級を適切と考える層では、「多くの友達・多様な人と交流できる」「学校行事に活気が生まれる」が高い。少なめの学級数では教員連携や施設利用、多めの学級数では交流機会や集団活動の充実が、適切と考える理由として重視される傾向がみられる。

・小学校教職員では「2～3 学級」、中学校教職員では「4～5 学級」の回答が中心である。いずれも「クラス替えができ、人間関係が固定化されにくい」「教員同士が連携・分担しやすい」が高く、教員配置・学年運営のしやすさが適正学級数を判断する上で重視されている。

### 小学生の保護者

| | | 全体 | クラス替えができ、人間関係が固定化されにくい | 多くの友達ができて、多様な人と交流できる | 学級同士で切磋琢磨しながら学習や活動に取り組める | 運動会や宿泊学習などの学校行事に活気が生まれる | 教員同士が連携・分担しながら学年運営をしやすい | 異年齢での交流や活動を行いやすい | 運動場や体育館、特別教室などがゆとりをもって使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (744) | 508<br>68.3 | 395<br>53.1 | 191<br>25.7 | 209<br>28.1 | 179<br>24.1 | 65<br>8.7 | 186<br>25.0 | 11<br>1.5 |
| Q10 １学年あたりどの程度の学級数が適切と思いますか。【１つ選択】 | １学級 | (2) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 1<br>50.0 | 0<br>0.0 | 2<br>100.0 | 1<br>50.0 | 1<br>50.0 | 0<br>0.0 |
| | ２～３学級 | (540) | 356<br>65.9 | 260<br>48.1 | 137<br>25.4 | 154<br>28.5 | 144<br>26.7 | 55<br>10.2 | 166<br>30.7 | 9<br>1.7 |
| | ４～５学級 | (195) | 150<br>76.9 | 131<br>67.2 | 50<br>25.6 | 53<br>27.2 | 30<br>15.4 | 9<br>4.6 | 19<br>9.7 | 1<br>0.5 |
| | ６学級以上 | (7) | 2<br>28.6 | 4<br>57.1 | 3<br>42.9 | 2<br>28.6 | 3<br>42.9 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 1<br>14.3 |

※「1 学年あたりの学級数を選択した理由」は調査途中で単一回答から複数回答へ設定を変更しているため、参考値。

### 中学生の保護者

| | | 全体 | クラス替えができ、人間関係が固定化されにくい | 多くの友達ができて、多様な人と交流できる | 学級同士で切磋琢磨しながら学習や活動に取り組める | 運動会や宿泊学習などの学校行事に活気が生まれる | 教員同士が連携・分担しながら学年運営をしやすい | 異年齢での交流や活動を行いやすい | 運動場や体育館、特別教室などがゆとりをもって使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (466) | 304<br>65.2 | 266<br>57.1 | 139<br>29.8 | 157<br>33.7 | 93<br>20.0 | 20<br>4.3 | 75<br>16.1 | 9<br>1.9 |
| Q10 １学年あたりどの程度の学級数が適切と思いますか。【１つ選択】 | １学級 | (1) | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | ２～３学級 | (139) | 84<br>60.4 | 53<br>38.1 | 40<br>28.8 | 33<br>23.7 | 50<br>36.0 | 13<br>9.4 | 41<br>29.5 | 4<br>2.9 |
| | ４～５学級 | (299) | 201<br>67.2 | 195<br>65.2 | 94<br>31.4 | 117<br>39.1 | 39<br>13.0 | 6<br>2.0 | 34<br>11.4 | 5<br>1.7 |
| | ６学級以上 | (27) | 18<br>66.7 | 17<br>63.0 | 5<br>18.5 | 7<br>25.9 | 4<br>14.8 | 1<br>3.7 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |

小学校教職員

| | | 全体 | クラス替えができ、人間関係が固定化されにくい | 多くの友達ができて、多様な人と交流できる | 学級同士で切磋琢磨しながら学習や活動に取り組める | 運動会や宿泊学習などの学校行事に活気が生まれる | 教員同士が連携・分担しながら学年運営をしやすい | 異年齢での交流や活動を行いやすい | 運動場や体育館、特別教室などがゆとりをもって使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (215) | 167<br>77.7 | 99<br>46.0 | 60<br>27.9 | 75<br>34.9 | 179<br>83.3 | 31<br>14.4 | 90<br>41.9 | 1<br>0.5 |
| Q11 １学年あたりどの程度の学級数が適切と思いますか。【1つ選択】 | １学級 | (0) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | ２～３学級 | (191) | 147<br>77.0 | 85<br>44.5 | 54<br>28.3 | 67<br>35.1 | 159<br>83.2 | 30<br>15.7 | 87<br>45.5 | 1<br>0.5 |
| | ４～５学級 | (23) | 19<br>82.6 | 13<br>56.5 | 5<br>21.7 | 7<br>30.4 | 19<br>82.6 | 0<br>0.0 | 2<br>8.7 | 0<br>0.0 |
| | ６学級以上 | (1) | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 1<br>100.0 | 0<br>0.0 |

中学校教職員

| | | 全体 | クラス替えができ、人間関係が固定化されにくい | 多くの友達ができて、多様な人と交流できる | 学級同士で切磋琢磨しながら学習や活動に取り組める | 運動会や宿泊学習などの学校行事に活気が生まれる | 教員同士が連携・分担しながら学年運営をしやすい | 異年齢での交流や活動を行いやすい | 運動場や体育館、特別教室などがゆとりをもって使いやすい | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (93) | 74<br>79.6 | 43<br>46.2 | 42<br>45.2 | 36<br>38.7 | 59<br>63.4 | 5<br>5.4 | 21<br>22.6 | 2<br>2.2 |
| Q11 １学年あたりどの程度の学級数が適切と思いますか。【1つ選択】 | １学級 | (0) | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 |
| | ２～３学級 | (17) | 12<br>70.6 | 5<br>29.4 | 5<br>29.4 | 5<br>29.4 | 12<br>70.6 | 2<br>11.8 | 7<br>41.2 | 1<br>5.9 |
| | ４～５学級 | (73) | 60<br>82.2 | 38<br>52.1 | 37<br>50.7 | 31<br>42.5 | 45<br>61.6 | 3<br>4.1 | 13<br>17.8 | 0<br>0.0 |
| | ６学級以上 | (3) | 2<br>66.7 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 0<br>0.0 | 2<br>66.7 | 0<br>0.0 | 1<br>33.3 | 1<br>33.3 |

## ＜保護者＞＜教職員＞学校規模×1 学年あたりの適正学級数

・保護者をみると、小規模校、標準規模校の保護者は「２～３学級」の回答が大半を占めるのに対し、大規模校・過大規模校の保護者は「４～５学級」56.5%と「２～３学級」36.7%を上回っており、適切と考える学校規模は、各学校の現状を反映した回答となっている。

・教職員をみると、どの学校規模の教職員も「２～３学級」の回答が大半を占める。

・保護者では学校規模による差がみられる一方、教職員では「2～3 学級」を適切と考える傾向が共通している。

保護者

| | | 全体 | １学級 | ２～３学級 | ４～５学級 | ６学級以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (1219) | 3 | 682 | 500 | 34 |
| | | | 0.2 | 55.9 | 41.0 | 2.8 |
| あなたのお子様が通学する学校を選択してください。【１つ選択】 | 小規模校 | (109) | 1 | 75 | 32 | 1 |
| | | | 0.9 | 68.8 | 29.4 | 0.9 |
| | 標準規模校 | (726) | 2 | 466 | 251 | 7 |
| | | | 0.3 | 64.2 | 34.6 | 1.0 |
| | 大規模校・過大規模校 | (384) | 0 | 141 | 217 | 26 |
| | | | 0.0 | 36.7 | 56.5 | 6.8 |

教職員

| | | 全体 | １学級 | ２～３学級 | ４～５学級 | ６学級以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | (308) | 0 | 208 | 96 | 4 |
| | | | 0.0 | 67.5 | 31.2 | 1.3 |
| あなたが勤務する学校を選択してください。【1つ選択】 | 小規模校 | (41) | 0 | 25 | 16 | 0 |
| | | | 0.0 | 61.0 | 39.0 | 0.0 |
| | 標準規模校 | (184) | 0 | 133 | 49 | 2 |
| | | | 0.0 | 72.3 | 26.6 | 1.1 |
| | 大規模校・過大規模校 | (83) | 0 | 50 | 31 | 2 |
| | | | 0.0 | 60.2 | 37.3 | 2.4 |

※各学校の通常学級数によって、下記のように分類し、クロス集計を行った。

＜学級数に基づく各学校の分類（令和 8 年度時点）＞

| 区分 | 学級数 | 小学校 | 中学校 |
|---|---|---|---|
| 小規模校 | 12 学級未満 | 桃栄 | 春日 |
| 標準規模校 | 12～18 学級 | 春日、清洲東、星の宮、新川、古城、西枇杷島 | 新川、西枇杷島 |
| 大規模校 | 19～30 学級 | ― | 清洲 |
| 過大規模校 | 31 学級以上 | 清洲 | ― |

※学級数は特別支援学級を除く

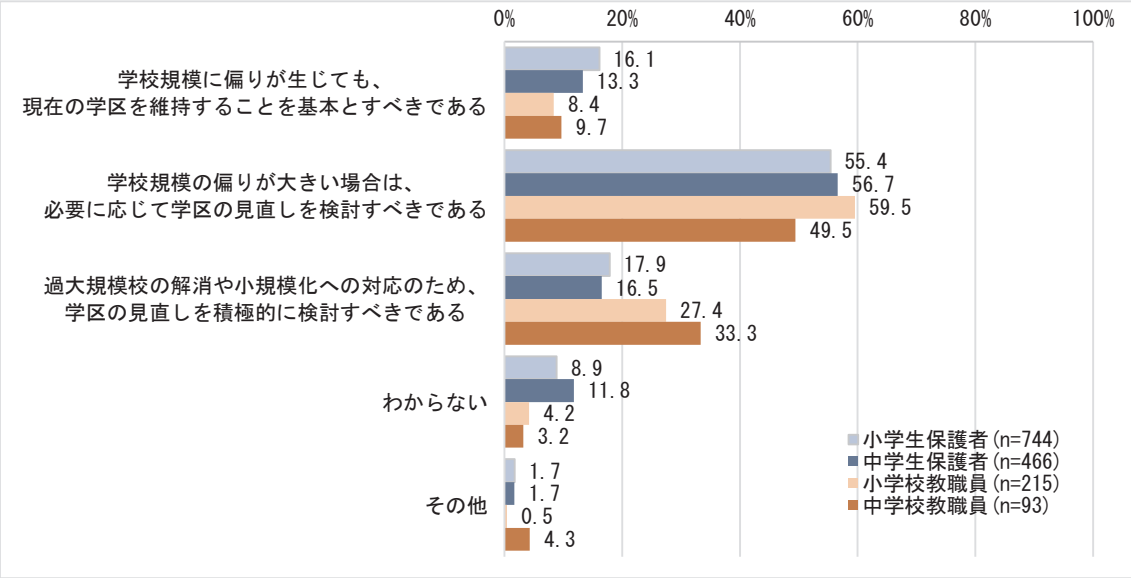
## （２）適正配置・通学について

＜保護者＞＜教職員＞学校ごとの児童生徒数や学級数の偏りを踏まえ、今後、学区の見直しを検討する必要が生じた場合、どのように進めていくべきか。【１つ選択】

・保護者をみると、「必要に応じて学区の見直しを検討」は、小学生の保護者 55.4%、中学生の保護者も 56.7%とともに高い。次いで、「学区の見直しを積極的に検討」が小学生の保護者 17.9%、中学生の保護者 16.5%と高い。

・教職員をみると、保護者同様、「必要に応じて学区の見直しを検討」が小学校教職員 59.5%、中学校教職員 49.5%とともに高い。次いで、「学区の見直しを積極的に検討」が小学校教職員 27.4%、中学校教職員 33.3%と高い。

・保護者と比べると、教職員は学区の見直しを検討するべきと考える層が多いことがうかがえる。

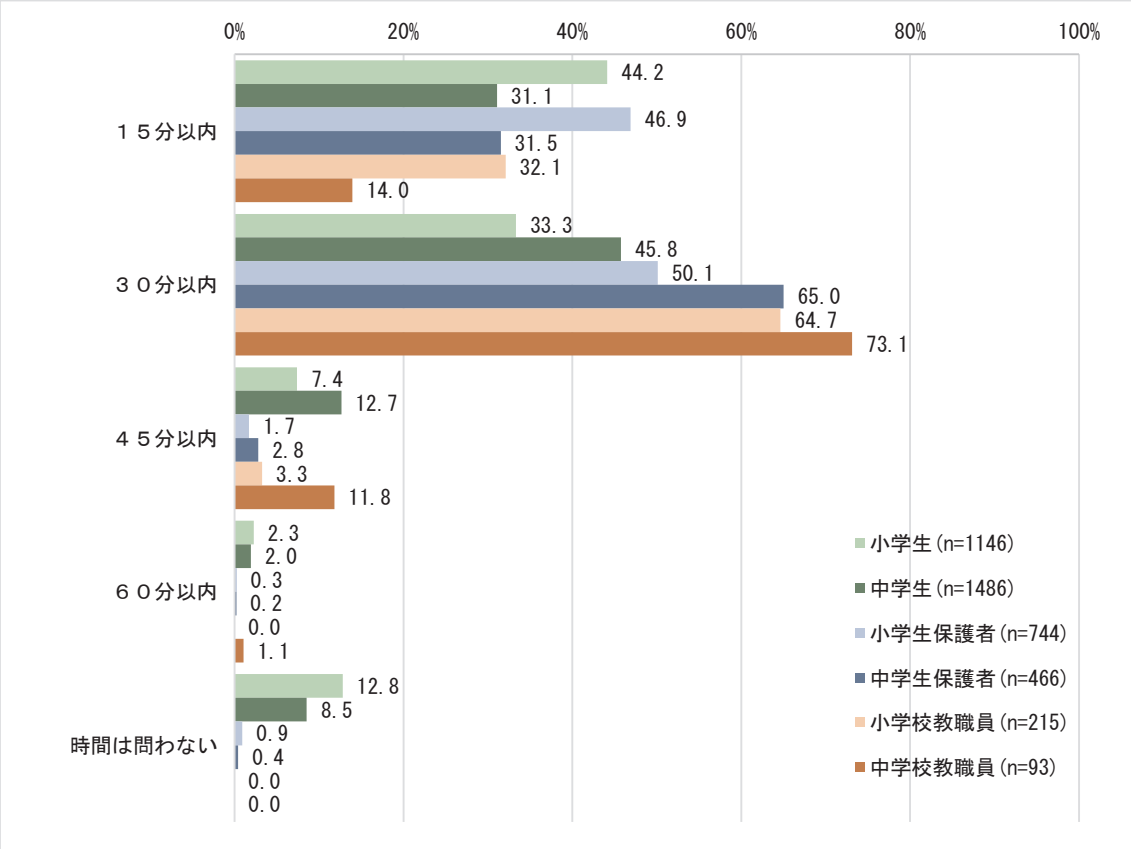


＜児童生徒＞＜保護者＞＜教職員＞通学時間（片道）の許容範囲【１つ選択】

・児童生徒をみると、小学生は「15 分以内」が 44.2%、「30 分以内」が 33.3%であるのに対し、中学生は「15 分以内」が 31.1%、「30 分以内」が 45.8%であり、両者とも大半が 30 分以内を許容範囲としている。中学生の方が 15 分超 30 分以内の通学を許容する比率が高い。

・保護者をみると、小学生の保護者は「15 分以内」46.9%、「30 分以内」50.1%であるのに対し、中学生の保護者は「15 分以内」31.5%、「30 分以内」65.0%であり、両者とも大半が 30 分以内を許容範囲としている。中学生の保護者の方が 15 分超 30 分以内の通学を許容する比率が高い。

・教職員をみると、小学校教職員では「15 分以内」32.1%、「30 分以内」64.7%となっており、30 分以内が 96%を超えている。一方、中学校教職員では「15 分以内」14.0%、「30 分以内」73.1%、「45 分以内」11.8%となっており、30 分超も 1 割以上の回答がある。中学校教職員の方がより長い通学時間を許容範囲としていることがうかがえる。

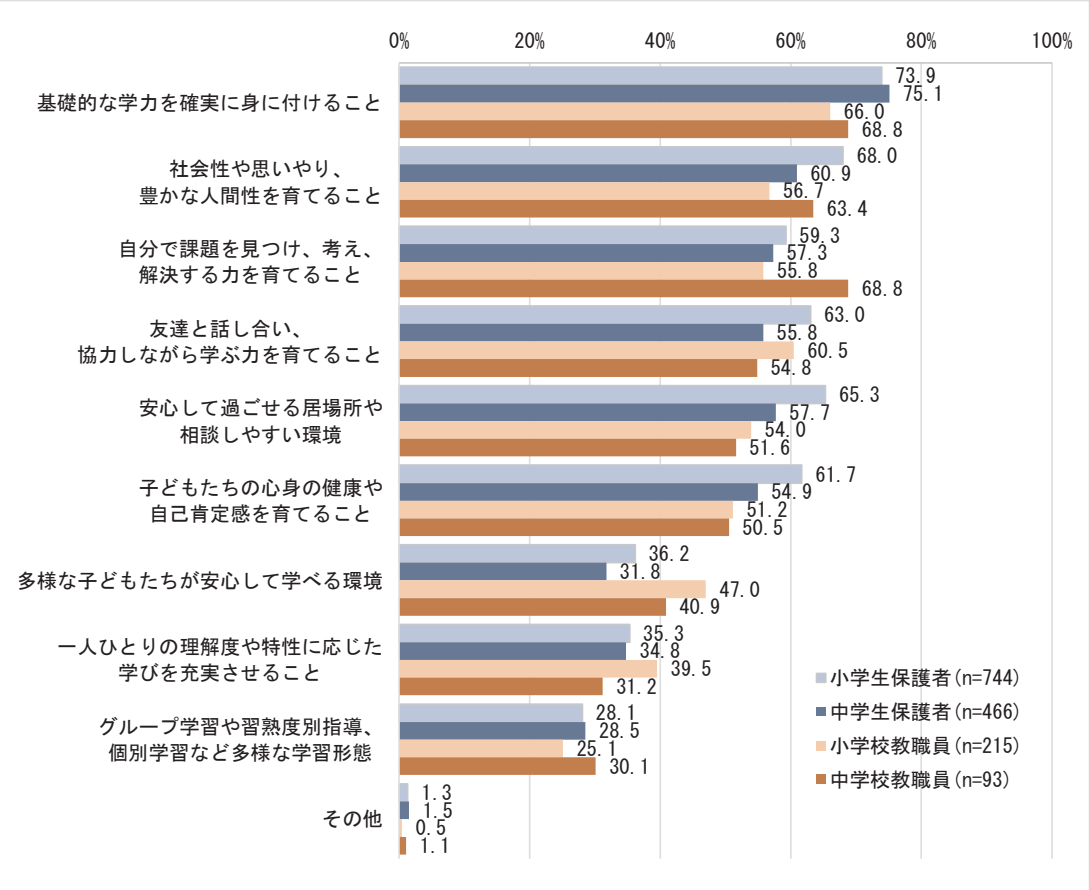


## （３）学校教育について

＜保護者＞＜教職員＞これからの学校教育で重視してほしいこと・重視すること【複数選択可】

・保護者をみると、小学生の保護者、中学生の保護者、共通して、「基礎的な学力を確実に身に付ける」、「社会性や思いやり、豊かな人間性を育てる」、「安心して過ごせる居場所や相談しやすい環境」の順に高い。
・小学生の保護者は中学生の保護者と比べ、「友達と話し合い、協力しながら学ぶ力」「心身の健康や自己肯定感」「社会性や思いやり」「安心して過ごせる居場所や相談しやすい環境」を重視する比率が５～８ポイント程度高い。小学生の保護者は学力面以外の社会性や心理面の育成等を重視する傾向がみられる。
・一方、中学生の保護者は、上位３つの次に「自分で課題を見つけ、考え、解決する力を育てる」が 57.3%と高い。

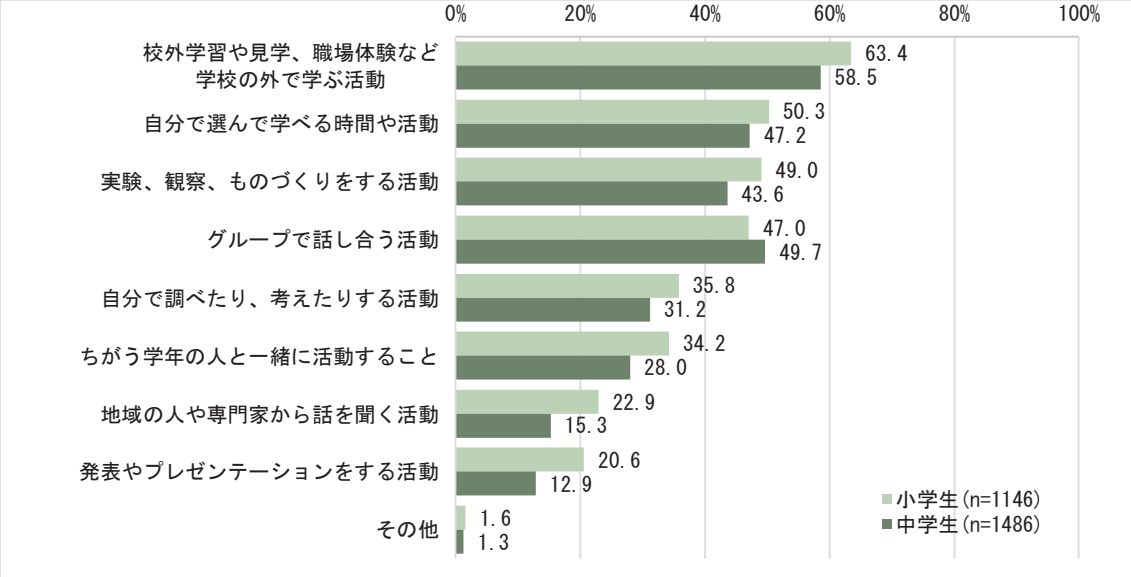
・小学校教職員は、「基礎的な学力を確実に身に付ける」66.0%、「友達と話し合い協力しながら学ぶ力を育てる」60.5%、「社会性や思いやり」56.7%、「自分で課題を見つけ、考え、解決する力を育てる」55.8%の順に高い。一方、中学校教職員は、「基礎的な学力を確実に身に付ける」68.8%、「自分で課題を見つけ、考え、解決する力を育てる」68.8%、「社会性や思いやり」63.4%、「友達と話し合い協力しながら学ぶ力を育てる」54.8%の順に高い。
・小学校・中学校教職員はともに基礎学力を重視する一方、「自分で課題を見つけ、考え、解決する力」は中学校教職員が小学校教職員を 13.0 ポイント上回り、中学校教職員の方が課題解決力をより重視することがうかがえる。



＜児童生徒＞授業や学校活動で、もっと増えるとよいと思うこと【複数選択可】

・小学生は「校外学習・見学・職場体験」63.4%、「自分で選んで学べる時間や活動」50.3%、「実験、観察、ものづくりをする活動」49.0%の順に高く、中学生は「校外学習・見学・職場体験」58.5%、「グループで話し合う活動」49.7%、「自分で選んで学べる時間や活動」47.2%の順に高い。

・上位３位のうち「校外学習・見学・職場体験」と「自分で選んで学べる時間や活動」は共通で、さらに小学生は「実験、観察、ものづくりをする活動」といった体験、中学生は「グループで話し合う活動」といった交流を重視している。



＜保護者＞＜教職員＞どのような特色ある教育を受けさせたいか、推進するとよいと思うか【複数選択可】

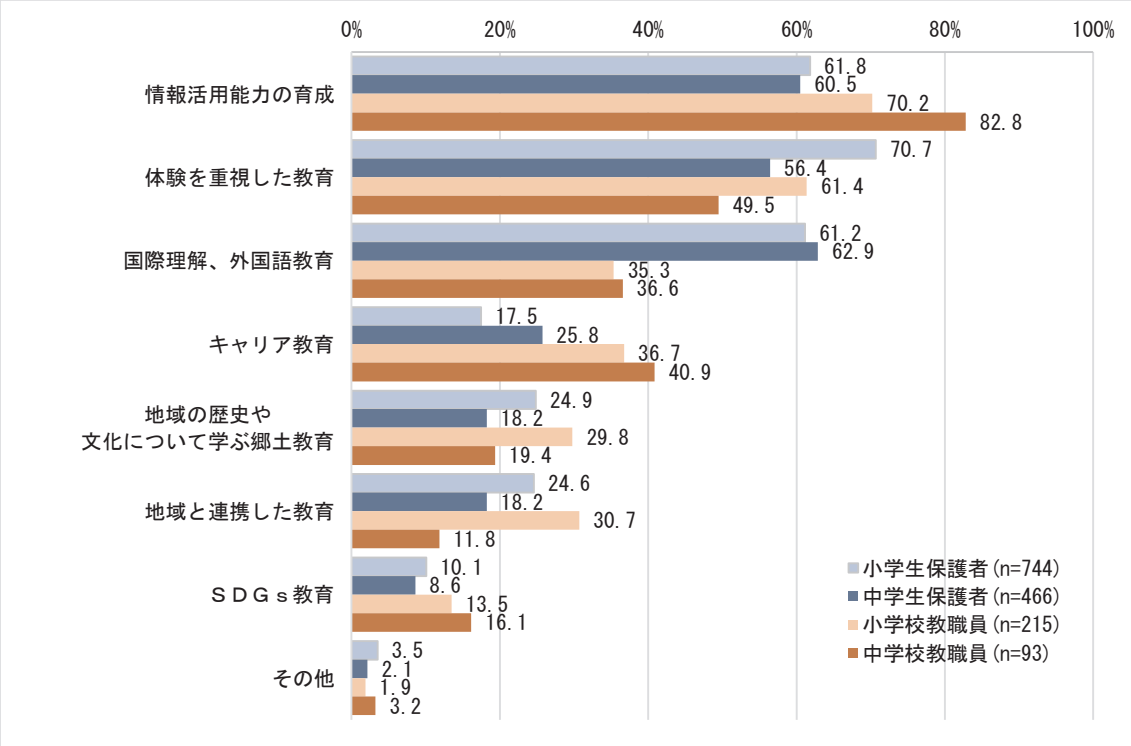
・保護者をみると、小学生の保護者は、「体験を重視した教育」70.7%、「情報活用能力の育成」61.8%、「国際理解、外国語教育」61.2%の順に高く、中学生の保護者は、「国際理解、外国語教育」62.9%、「情報活用能力の育成」60.5%、「体験を重視した教育」56.4%の順に高い。順位は入れ替わるが上位 3 つは「体験」「情報」「国際理解・外国語」で共通。

・両者で差がある項目をみると、「体験を重視した教育」は小学生の保護者 70.7%、中学生の保護者 56.4%と、小学生の保護者が 14.3 ポイント高い。一方、「キャリア教育」は小学生の保護者 17.5%、中学生の保護者 25.8%で中学生の保護者が 8.3 ポイント高い。子どもの発達段階に応じて、保護者が期待する教育の内容が変化している。

・教職員をみると、小学校教職員は「情報活用能力の育成」70.2%、「体験を重視した教育」61.4%、「キャリア教育」36.7%、「国際理解、外国語教育」35.8%の順に高く、中学校教職員は「情報活用能力の育成」82.8%、「体験を重視した教育」49.5%、「キャリア教育」40.9%、「国際理解、外国語教育」36.6%の順に高い。

・上位４つ「情報活用能力の育成」「体験を重視した教育」「キャリア教育」「国際理解・外国語教育」は共通している。この中で「情報活用能力の育成」は中学校教職員の方が小学校教職員を 12.6 ポイント上回り、「体験を重視した教育」は小学校教職員の方が中学校教職員を 11.9 ポイント上回る。

・さらに「地域と連携した教育」は小学校教職員 30.7%の方が中学校教職員 11.8%を 18.9 ポイント上回る。

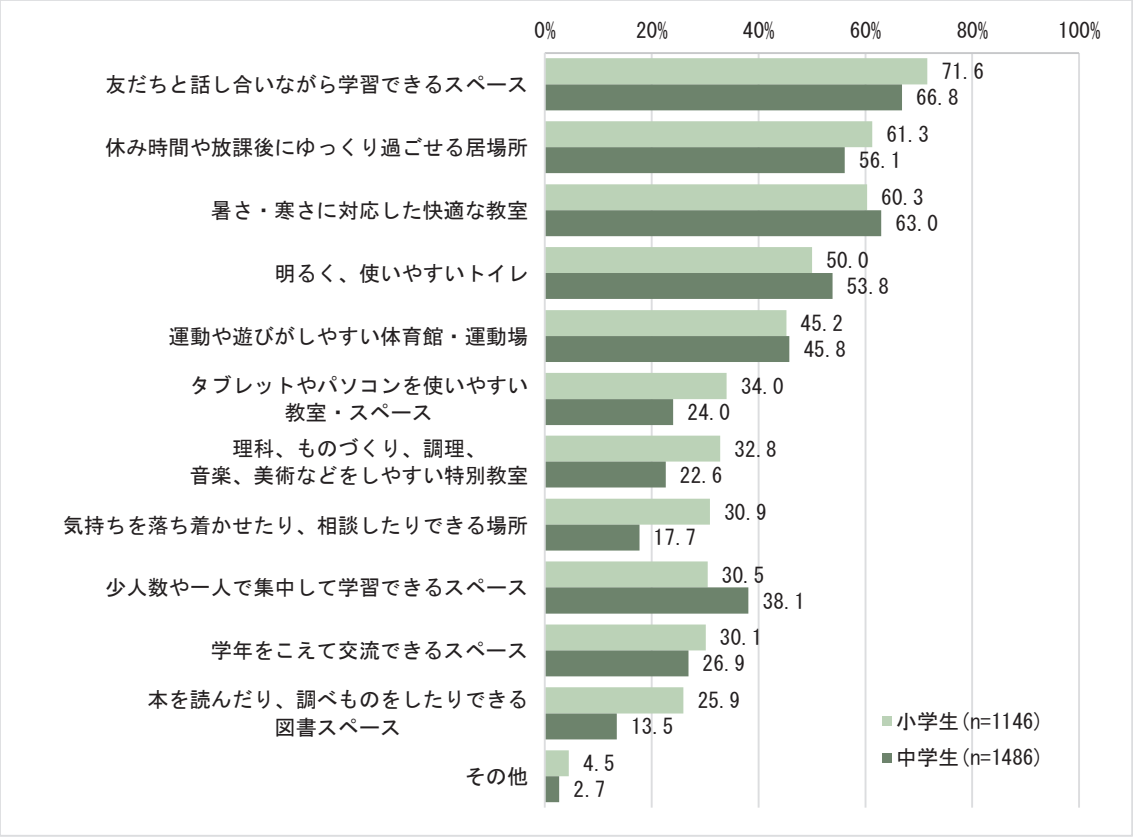


## （４）学校施設について

＜児童生徒＞学校にどのような施設やスペースがあるとよいと思うか【複数選択可】

・小学生は「友だちと話し合いながら学習できるスペース」71.6%、「休み時間や放課後にゆっくり過ごせる居場所」61.3%、「暑さ・寒さに対応した快適な教室」60.3%、「明るく、使いやすいトイレ」50.0%、「運動や遊びがしやすい体育館・運動場」45.2%の順に高い。中学生は「友だちと話し合いながら学習できるスペース」66.8%、「暑さ・寒さに対応した快適な教室」63.0%、「休み時間や放課後にゆっくり過ごせる居場所」56.1%、「明るく、使いやすいトイレ」53.8%、「運動や遊びがしやすい体育館・運動場」45.8%の順に高い。

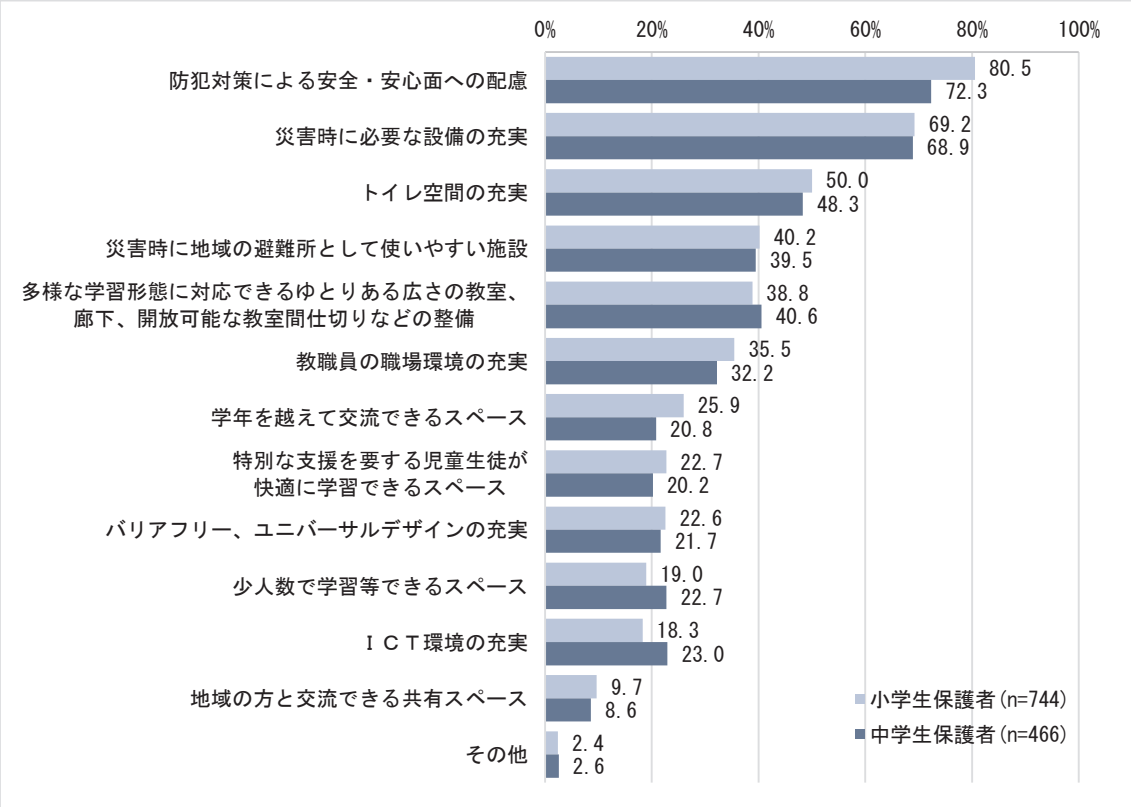
・「友だちと学習できるスペース」「休み時間や放課後の居場所」「快適な教室」「快適なトイレ」「運動・遊びがしやすい体育館・運動場」といった上位５つは共通している。



＜保護者＞今後、学校を整備するにあたって、期待するスペース・機能【複数選択可】

・小学生の保護者は「防犯対策による安全・安心面への配慮」80.5%、「災害に必要な設備の充実」69.2%、「トイレ空間の充実」50.0%、「災害時に地域の避難所として使いやすい施設」40.2%、「多様な学習形態に対応できるゆとりある広さの教室、廊下、開放可能な教室間仕切りなどの整備」38.8%の順に高い。中学生の保護者は「防犯対策による安全・安心面への配慮」72.3%、「災害に必要な設備の充実」68.9%、「トイレ空間の充実」48.3%、「多様な学習形態に対応できるゆとりある広さの教室、廊下、開放可能な教室間仕切りなどの整備」40.6%、「災害時に地域の避難所として使いやすい施設」39.5%の順に高い。

・両者とも「防犯対策」「災害に必要な設備の充実」が特に高く、次いで「トイレ空間」「ゆとりある広さの教室・廊下・開放可能な間仕切り」「地域の避難所として使いやすい施設」が高い。



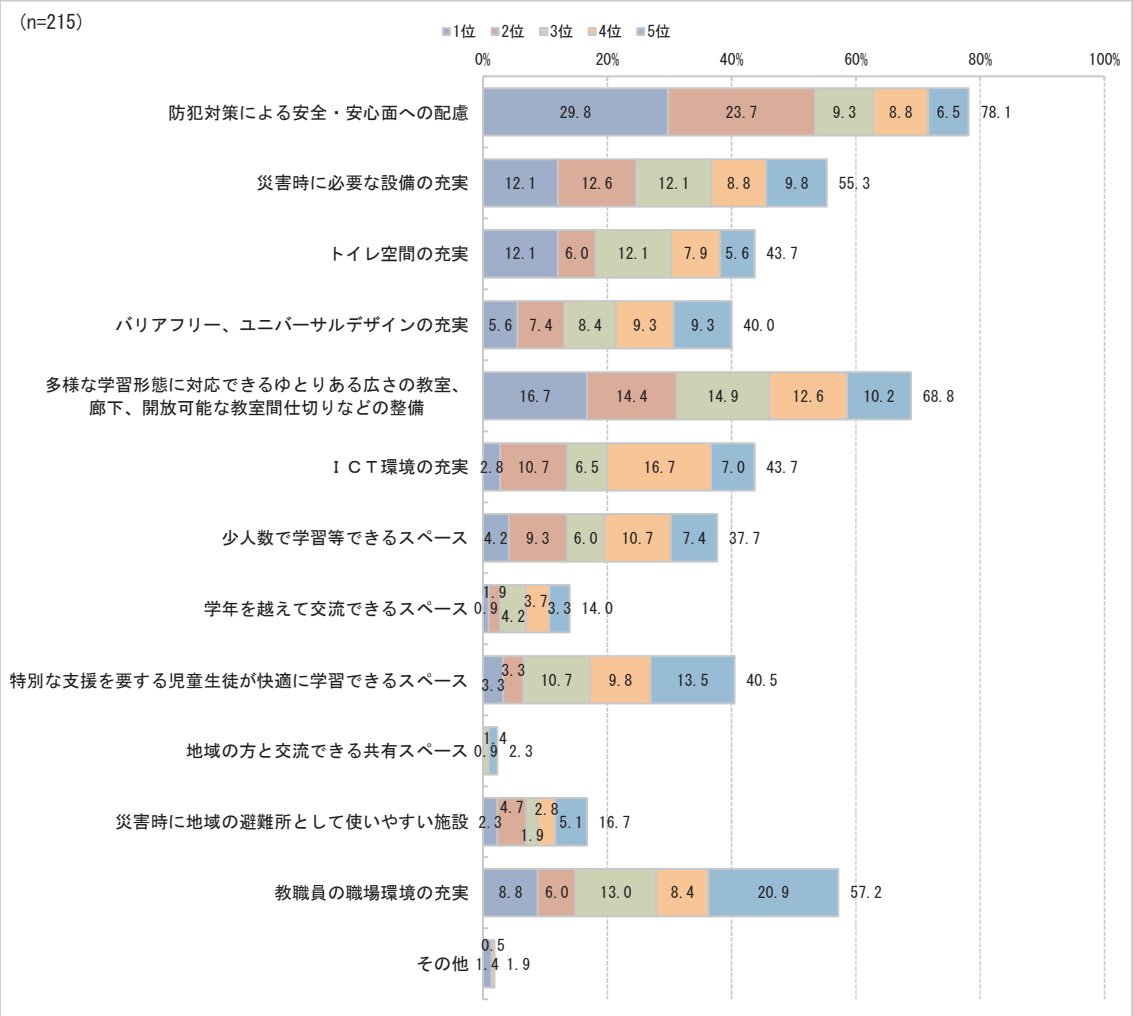
＜教職員＞今後、学校を整備するにあたって、特に重要だと思うスペース・機能【重要だと思う順に１位から５位まで選択】

・１位についてみると、小学校教職員では「防犯対策による安全・安心面への配慮」29.8%、「多様な学習形態に対応できるゆとりある教室等」16.7%、「災害時に必要な設備の充実」12.1%、「トイレ空間の充実」12.1%が高く、中学校教職員では「多様な学習形態に対応できるゆとりある教室等」20.4%、「防犯対策による安全・安心面への配慮」17.2%、「教職員の職場環境の充実」17.2%が高い。

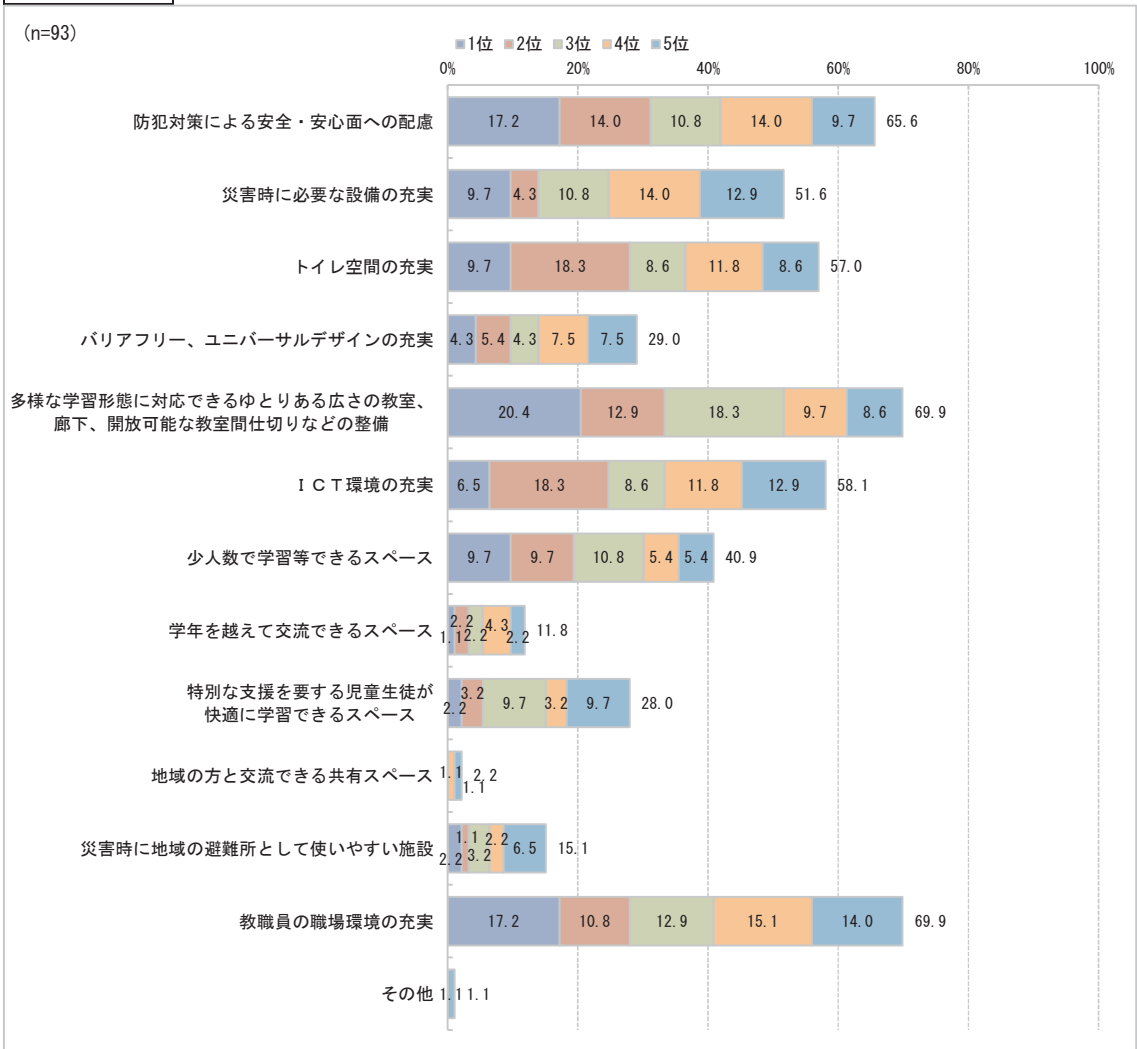
・５位までの合計でみると、小学校教職員では「防犯対策による安全・安心面への配慮」78.1%、「多様な学習形態に対応できるゆとりある教室等」68.8%、「教職員の職場環境の充実」57.2%が高く、中学校教職員では「多様な学習形態に対応できるゆとりある教室等」69.9%、「教職員の職場環境の充実」69.9%、「防犯対策による安全・安心面への配慮」65.6%が高い。

・小学校・中学校教職員に共通して、「防犯対策」「多様な学習形態に対応できる教室」は、１位でも５位までの合計でも高く、最も重要だと思われている。加えて、「教職員の職場環境の充実」も小学校・中学校教職員に共通して５位までの合計で高い。

小学校教職員



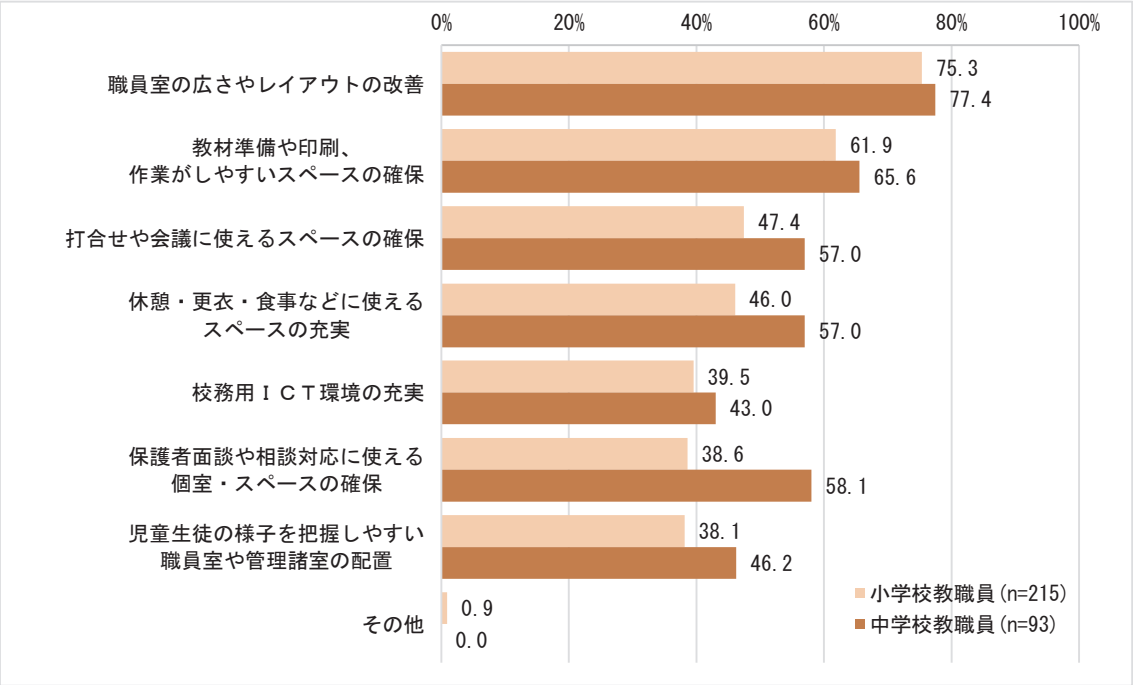
## 中学校教職員


(n=93)
1位 2位 3位 4位 5位
0%
20%
40%
60%
80%
100%
防犯対策による安全・安心面への配慮
17.2 14.0 10.8 14.0 9.7 65.6
災害時に必要な設備の充実
9.7 4.3 10.8 14.0 12.9 51.6
トイレ空間の充実
9.7 18.3 8.6 11.8 8.6 57.0
バリアフリー、ユニバーサルデザインの充実
4.3 5.4 4.3 7.5 7.5 29.0
多様な学習形態に対応できるゆとりある広さの教室、廊下、開放可能な教室間仕切りなどの整備
20.4 12.9 18.3 9.7 8.6 69.9
ＩＣＴ環境の充実
6.5 18.3 8.6 11.8 12.9 58.1
少人数で学習等できるスペース
9.7 9.7 10.8 5.4 5.4 40.9
学年を越えて交流できるスペース
1.1 2.2 2.2 4.3 2.2 11.8
特別な支援を要する児童生徒が快適に学習できるスペース
2.2 3.2 9.7 3.2 9.7 28.0
地域の方と交流できる共有スペース
1.1 1.1 2.2
災害時に地域の避難所として使いやすい施設
2.2 1.1 3.2 2.2 6.5 15.1
教職員の職場環境の充実
17.2 10.8 12.9 15.1 14.0 69.9
その他
1.1 1.1

＜教職員＞教職員が働きやすい学校施設とするために、特に必要だと思うこと【複数選択可】

・小学校教職員では「職員室の広さやレイアウトの改善」75.3%、「教材準備や印刷、作業がしやすいスペースの確保」61.9%、「打合せや会議に使えるスペースの確保」47.4%の順に高く、中学校教職員では「職員室の広さやレイアウトの改善」77.4%、「教材準備や印刷、作業がしやすいスペースの確保」65.6%、「保護者面談・相談対応に使えるスペース」58.1%の順に高い。さらに、中学校教職員では「休憩・更衣・食事などに使えるスペース」「打合せや会議に使えるスペース」も 57.0%あり、「保護者面談・相談対応」「休憩・更衣・食事」「打合せや会議」のスペースは、中学校教職員の方が小学校教職員より 10 ポイント以上高く回答している。

・小学校・中学校教職員に共通し、「職員室の広さやレイアウトの改善」「教材準備や印刷、作業がしやすいスペース」を最も必要だと感じており、中学校教職員はさらに保護者面談・相談対応」「休憩・更衣・食事」「打合せや会議」のスペースも必要だと感じている。



（５）自由記述

＜保護者＞かつて清須市内の小中学校に通われていた経験や、お子さまが通われている学校での活動や施設について、印象に残っているものや、地域や子どもたちにとってこれからも残した方がよいと思われること・もの

・小学生の保護者、中学生の保護者とも、部活動・クラブ活動を残してほしいとの意見が最も多かった。

・その他名前が挙がった学校固有の取組・施設

| | | |
|---|---|---|
| **クロガネモチの木**<br>西枇杷島小学校<br>草木染めにも活用。<br><br>11 件 | **西枇杷島まつりの山車見学・お囃子**<br>西枇杷島小・古城小<br>地元の祭りを知り、関わる学習。<br>11 件 | **東海豪雨の紙芝居・学習**<br>西枇杷島小・古城小・星の宮小<br>水害の記憶を伝える防災学習。<br>9 件 |
| **まち探検**<br>清洲小・清洲東小ほか<br>地域の店や施設を訪ねる 2 年生の活動。<br><br>11 件 | **清洲太鼓**<br>清洲東小<br>5 年生が取り組む発表。継承を望む声。<br><br>5 件 | **アルコ清洲での水泳授業**<br>清洲東小<br>屋内プールで熱中症リスクがない。<br><br>6 件 |
| **宮重大根の栽培・調理**<br>春日小<br>地域の方と関わる伝統野菜の学習。<br><br>5 件 | **黒松・展望室のプラネタリウム**<br>春日小<br>伊勢湾台風を生き延びた松と、屋上の展望室。<br><br>8 件 | **縦割り活動（ももっこ等）**<br>桃栄小ほか<br>小規模校ならではの異学年交流。<br><br>9 件 |
| **にこにこワールド**<br>清洲小<br>学年を超えて交流できる行事。<br><br>5 件 | **ランチルーム・木造校舎**<br>新川中・新川小<br>全学年で給食を食べた空間の記憶。<br><br>12 件 | **合唱コンクール・職場体験**<br>各中学校<br>クラスの団結と社会に触れる機会。<br><br>35 件 |